

まちづくり

協働指針

まちづくりとは、町内会・自治会など地域主体の地域活動だけを指すものではありません。子育てや福祉、教育、産業、環境、交通、観光などさまざまな分野で取り組む「より良い久慈づくり」を意味します。各々の取り組みからあらゆる主体が力を出し合うことで、これまでには出来なかった課題解決や新たな可能性が広がっていくことが期待されています。

そのために、市民一人ひとりが将来を見据えながら、市民協働の意識を持ち共有することが重要です。策定した指針では、まちを元気にしていくために必要となる「協働」の取り組み

みについて、良い点や気を付けなければならぬ事をまとめています。「久慈市まちづくりを進めるための協働指針」は、市ホームページに掲載。各市民センターで冊子を配布しています。検討委員会でも結論に至った意見等も記載されていますので、まちづくりの道しるべとしてご覧ください。



将来の地域の幸せに向かって

これからも住み続けたいまちを目指す取り組みは、必ずしも平坦な道のりではありません。また、一朝一夕に成し遂げられるものもなく、時には負担に感じたりうまくいかない場合もあるかもしれません。誰かが取り組まなければ、皆さんと思いつく将来を作

ることは出来ません。これ以上良くない状態にしないためには、今動き出す必要があります。誰かがではなく、みんなで力を出し合い、少しずつ、一歩一歩、将来の幸せに向かって一緒に取り組んでいきましょう。



協働のねらい

協働の効果や狙いについてお話しします

目的

活動目的を共有する

目指したいゴールは何かという「目的」と、いつまでに何を達成するのかという「目標」を共有し、同じくすることが重要です。

Win-Winの関係

みんながよい感じになる

関わる主体それぞれがメリットを感じることが重要です。そのため、それぞれが幸せになるような役割分担や進め方、関係づくりが大切です。

継続

成果を急がない

その成果が見えるようになるまで、時間がかかる場合があることから、互いに急いで成果を求めない姿勢と、途中の経過を意識しながら続けることが大切です。

相互理解

互いの違いを受け入れる

互いの違い（得意・不得意、立場や環境、考え方や価値観など）を理解し、その違いを受け入れることが大切です。

柔軟

変化を受け入れる

さまざまな主体が関わるため、主体ごとの特徴や新しいアイデアが出てきます。また、地域や時代の変化により、活動を変えた方がよい場合もあります。そのため、共に活動する相手と話し合った上で、時には活動の形を変えることも大切です。

成長

関わる「じ」で成長する

協働を通じてさまざまな情報や知識を得て経験を積むことで、活動に参加する自分も相手も成長することができます。

協働を推進

協働の取り組みを続けていくための仕組みや方法についてお話しします

つながる仕組み

協働を始める、または協働の取り組みを続けていくには、さまざまな人や団体とつながっていくことが必要となります。

話し合える場

協働を進めていくうえで、互いの想いや考えを話し合う場をつくる必要があります。

楽しむ気持ち

活動を継続していくには、それぞれの主体の特性や長所を活かし、楽しいと思える事を考え実行することが必要です。

活動資金

活動をするうえで、必ずしも資金が必要となるわけではありませんが、活動を継続し、さまざまな主体が関わっていくためには、活動資金を得る（稼ぐ）ことを考えていく必要があります。

学びの場

協働を続けるには、活動を支える人材や組織が必要となることから、そういった人材や組織が生まれ、周りを巻き込むための技術や心構えを学べる場が必要です。